



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第54巻第
4号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第54巻第4号). 泌尿器科紀要 2008, 54(4): 320-320

ISSUE DATE:

2008-04

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/71639>

RIGHT:

目の前の机の上に「診療報酬点数表：改正点の解説」というぶ厚い本がある。最初には、緊急課題として「産科や小児科をはじめとする病院勤務医の負担の軽減」に関する改正が載っている。病院や診療所はこの改正を受け、出来るだけ有利となるように対応を変化させるので、医療を政策誘導するにはこの診療報酬改正が最も手取り早い。政府がこの問題を緊急課題として取り上げたことには大きな意味があるが、今回の改正で病院勤務医の負担は本当に減るのだろうか。点数自体の細かな引き上げは、今の病院の経営状態からすると赤字の埋め合わせに消える可能性が高い。「算定要件」というところに、勤務医の負担軽減が示されているが、本当に採算が取れ実現性のある方法かどうか疑問である。

もうひとつの政策誘導は保険体制である。４月から後期高齢者医療制度もスタートする。扶養家族であった後期高齢者でさえ現在の保険から脱退させられ、この制度に組み込まれる。また保険料は年金からの天引きという、不安解消型の幸福感はけっして得られそうにない。

(小川 修)